第43回
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

埼玉県鴻巣市（こうのす）し

花かおり　緑あふれ　人輝くまち
～こうのす～

埼玉県のほぼ中央に位置し、秩父山地を源流とする荒川が流れ、関東ローム層や荒川沖積層からなる肥沃（ひよく）な土地で、気候にも恵まれ、花きなどの栽培が盛んなまち。古くは中山道の宿場町として栄え、380年余りの伝統を誇る「ひな人形のまち」として、また近年では「花のまち」としても全国にその名が知られている。

魅力的なまちづくりに向けて

鴻巣市は、都心から50㎞という地理的条件に恵まれている。鉄道交通では、平成13年の「湘南新宿ライン」に続き、平成27年3月には「上野東京ライン」が開業したことで、東京圏への乗り入れがさらに向上した。道路交通では、平成27年10月に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の埼玉県内区間が全線開通した。このような交通の整備により、地域交通の要衝としてのポテンシャルを生かした都心へのベッドタウンとして、また、県央部の中核都市として発展を続けている。

発展を続ける状況下であっても、人口減少社会の突入や社会情勢の変化への対応は必要であり、「すべての『人』が文化に親しみ、安全・安心、そして快適な暮らしを守るまちづくり」、「『花』を生かした個性的で魅力的なまちづくり」、「河川や田園など豊かで美しい『緑』を守り育てるまちづくり」を基本理念に掲げて将来都市像を描いている。

将来都市像の実現のため、「鴻巣」という地名の由来ともいわれ、市民になじみ深い存在である「コウノトリ」をシンボルに、人とコウノトリをはじめとした多様な生きものが共生する「コウノトリの里」の実現に向けた取り組みを進めている。

また、観光客が増加することにより、市の認知度が高まり地域経済が活性化することを目指して、「鴻巣びっくりひな祭り」「こうのす花まつり」「こうのす花火大会」などの各種観光イベントの開催を主体とした観光客誘致にも力を入れている。

鴻巣市役所に展示されている「コウノトリ」の剥製（はくせい）

NPO法人 鴻巣こうのとりを育む会
代表理事 伊藤 鋳義さん（右）、理事 服部 栄一さん（左）

人と自然の共生の確保を目指す

「コウノトリも棲める自然環境は、ヒトにもやさしく健康に生きられる」を合言葉に「NPO法人鴻巣こうのとりを育む会」が環境活動を行っている。

活動のきっかけを伊藤鋳義代表理事に伺った。「平成19年から、市民に愛着のあるコウノトリを飼育・放鳥しようと活動をはじめました。コウノトリは水辺の生態系ピラミッドの頂点に立つ生き物です。肉食でバッタ、蛙、ドジョウなどを食べ、一日に多くの餌が必要です。コウノトリが生きていくためには、多くの生き物がいる豊かな自然が必要となります。コウノトリも棲めるということは、人間にとっても安心して生活ができる環境の証です。そのような環境を整備するために、コウノトリをシンボルとして環境活動に取り組んでいます」。

主な活動として、荒川の河川敷にコウノトリの生息環境をつくる「湿地ビオトープ（野生生物の生息する空間）の整備」や、地域の農家や環境NGOと連携して無農薬や有機栽培による「県内初のコウノトリを育むモデル水田」を拠点とした「ふゆみず田んぼ（稲刈り後の冬の水田に水をはったもの）」、「魚道設置」などに取り組んでいる。また、子どもたちや父母を対象とした「いきもの観察会」や外来種駆除を兼ねた「自然体験」などのイベントも行っており、環境学習にも役立っている。

当初は9名で発足したが、活動が理解され、現在会員は168名に増えた。埼玉県がモデル水田や湿地で実施したモニタリング調査では、動物20種、植物77種が確認されるなど着実に自然がよみがえっている。また、冬には「ふゆみず田んぼ」にオオハクチョウが渡来するなど地道な活動が成果を挙げている。

この活動は、国土交通省の「地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果」として表彰する「手づくり郷土賞」を平成28年度に受賞している。

今後の活動について 服部栄一理事は、「さらに多くの市民の理解を得て、未来の子どもたちへより良い自然環境を引き継いでいきたいです。今後も、コウノトリも棲める環境の整備や将来的な野生復帰に向けた取り組みを進めていきたいです」と語った。

NPO法人 鴻巣こうのとりを育む会の活動

「ふゆみず田んぼ」に渡来したオオハクチョウ

子どもたちを対象とした「ザリガニ釣り」

整備された湿地ビオトープ

観光客増加による地域活性化を目指して

鴻巣市の4大イベントである「鴻巣びっくりひな祭り」「こうのす花まつり」「こうのす花火大会」「コスモスフェスティバル」をはじめ多くのイベントが開催され、観光客数は年々増加している。平成27年は平成23年と比較して2倍近くの約156万人が訪れた。

各種イベントのほか、関東十八檀林（僧の養成機関・学問所）の一つで、徳川家康ゆかりの寺院「勝願寺」や、鴻巣の地名の由来の一つともいわれ「こうのとり伝説」を今に伝える神社「鴻神社」などの歴史に触れる見所も多数存在している。また、江戸時代中頃から始められ、高度な技術と優れた品質で全国的に知れ渡る「鴻巣雛」や、その製作技術が平成23年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された「赤物」などの貴重な伝統工芸も現代に伝えられている。

気候風土に適したパンジーの生産から始まった「花き生産」は、近年、生産品種の増加や生産効率の向上により発展・拡大が図られ、「プリムラ」「サルビア」「マリーゴールド」は日本一の出荷量を誇り、東日本最大級の花き市場「鴻巣フラワーセンター」も整備されている。

このような地域の資源を観光客誘致に生かそうと「一般財団法人鴻巣市観光協会」が平成24年に発足し、観光推進体制が確立するとともに官民一体となった観光資源のPRや掘り起こしを推進している。

「観光ボランティア鴻巣ガイド会」
による名所・旧跡案内

鴻巣市観光協会
事務局 長谷川 達也さん

観光協会事務局の長谷川達也さんに鴻巣市の魅力について伺った。

「歴史的な見所や、現代まで継承されている伝統文化などが沢山ありますが、奥秩父から県内を横断し東京湾に注ぐ荒川は、河口から62km地点（鴻巣市、吉見町間）の川幅が2537mもあり日本一となっています。これにちなんで誕生した『こうのす川幅うどん』は、平成27年3月に開催された『第12回埼玉B級ご当地グルメ王決定戦』で優勝するなど埼玉を代表するご当地グルメとなっています。また、ほかにもギネス世界記録に認定された『世界一の四尺玉をあげる こうのす花火大会』や『日本一高いピラミッドひな壇』、『日本一長い水管橋』など多くの魅力があります」

「観光ボランティア鴻巣ガイド会」は、訪れた方におもてなしの心をもって、余すところなく多くの魅力を紹介しようとモデルコースを作って観光ガイドを行っている。また、観光協会では、初めて訪れた方も気軽にまち歩きできるよう「中山道歴史散策コース」や「川幅日本一体感コース」などの観光ルートを作成して観光客の増加に向けて取り組んでいる。

「鴻巣市は、都心から近いことやイベント観光が主体であることもあり、訪れる方はほとんどが日帰りとなっています。今後はリピーターを増やすとともに多くの方に宿泊してもらい、ゆっくりと滞在していただけるような仕組みを検討していきたいと考えています。観光情報もHPなどで分かりやすく発信して、積極的なPRを行っていきたいです」（長谷川さん）。

鴻巣市産業観光館「ひなの里」

鴻巣の特産であるひな人形を中心に、江戸時代から伝わる貴重な資料が展示されている

人形産業の中心地である人形町にある。敷地内にある蔵は、平成25年10月に埼玉県の景観重要建造物に指定された。

館内では、伝統民芸品の「赤物」や鴻巣の特産品の数々を紹介・販売している。川幅うどん、川幅せんべいなどを詰め合わせた観光協会オリジナル“川幅グルメセット”がオススメ。

鴻巣の赤物
製作技術は国の重要無形民俗文化財に指定された。

鴻巣市の観光拠点となっている「鴻巣市産業観光館 ひなの里」では、享保雛（きょうほびな）や古今雛（こきん びな）など歴史あるものから現代のコンパクトタイプまでさまざまな時代のひな人形や、全国的に残存数の少ない約200年前の貴重な「鴻巣雛」が展示されている。施設の運営母体である観光協会では、「鴻巣びっくりひな祭り」や「こうのす花まつり」などのイベントの企画、勝願寺や鴻神社などの歴史探訪など鴻巣の見どころを紹介している。

もう一つの観光拠点である「花と音楽の館かわさと 花久（かきゅう）の里」は、母屋、長屋門、茶室など旧家のたたずまいを生かした観光施設である。岡田明館長に施設の特徴を伺った。「庭園ではバラを中心に四季折々の草花が咲いています。サロンではコンサートができ、素人からプロまで幅広い方に利用されています。春と秋にはバラ祭りが開催され多くの方が訪れますが、訪れる方々に安らぎと懐かしさを感じていただければうれしいです。また、館内の食事処では、地元産の小麦『あやひかり』を使用した手打ちうどんが楽しめますのでぜひお越しください」

将来の都市像を明確にし、未来の子どもたちへより良い自然環境を引き継ごうとしている「鴻巣」。

これからも、歴史や伝統文化、そして多くのまちの魅力を発信し、「花かおり 緑あふれ 人輝くまち」として発展していくことだろう。

花と音楽の館かわさと「花久の里」

館長 岡田 明さん

母屋や長屋門など旧家のたたずまいを活かした観光施設。庭園ではバラを中心に四季折々の草花が咲き、サロンでのコンサートをはじめ、庭園祭りやバラ祭りが催される。

鴻巣駅東口に模型が設置されている四尺玉

高さ7m、31段もあるピラミッドひな壇。2月中旬から3月上旬に開催される「鴻巣びっくりひな祭り」は、人形のまちならではのビッグイベント。

「プリムラ」の栽培。他にも「サルビア」「マリーゴールド」が出荷量日本一。

橋長1,100.95mを誇る赤い水管橋。秋には水管橋をバックに1,200万本のコスモスが咲き「コスモスフェスティバル」が開催される。

鴻巣市⇔吉見町間の川幅は2,537m。御成橋の両岸には高さ5mの標柱が立つ。

- ギネス世界記録に認定された世界一の四尺玉
- 同時にブーケ（花束）を贈り受け取ったペア数世界一
- 日本一高いピラミッドひな壇
- 川幅日本一
- 日本一長い水管橋
- 日本一広いポピー畑
- 「プリムラ」「サルビア」「マリーゴールド」の出荷量日本一
- 1分あたりの尺玉以上の打ち上げ花火数日本一

2つの世界一と8つの日本一に出会えるまち

ポピー畑は広さ12.5ヘクタール。春には「こうのす花まつり」が開催される。

吹上夏まつり

「上組」と「下組」にわかれ、それぞれの神輿と山車が街中を練り歩く

勝願寺

関東十八檀林の1つで、徳川家康ゆかりの寺院。本堂などでは葵の紋を見ることができる。4月には仁王門を彩る桜、5月上旬には雪をかぶったように白い花を咲かせる「なんじゃもんじゃ」の木が見頃となる。

見どころ

イベント

こうのす花火大会

全国的にも有数の規模。今年は、10月7日（土）に行われる。

鴻巣夏まつり

中山道の3kmもの区間を歩行者天国にして実施される。神輿は12基と関東でも屈指の数を誇る。

鴻神社

樹齢500年以上と伝わる2本のイチョウの木があり、「夫婦銀杏」として親しまれている。明治時代に造られた総銅造りの小さなお宮「三狐稲荷神社」なども見所。毎年12月4日には酉の市が行われる。

いがまんじゅう

おまんじゅうを赤飯でまるまる包んでいることが特徴。栗のイガに似ていることからこの名前がついた。祝い事やおやつなどで親しまれてきた郷土料理。

グルメ

川幅グルメ

川幅日本一にちなみ誕生した麺の幅5センチを超える「川幅うどん」と「川幅せんべい」。他にも幅が広い餃子やスイーツなどもある。

鴻巣フラワーセンター

自動せりシステムなど最新鋭の機器などを導入した東日本最大級の花き市場。施設内には見学コース（要予約）も併設されている。

鴻巣市の地名の由来の1つである「こうのとり伝説」のこうのとりのヒナをモチーフにしたメインキャラクター「ひなちゃん」

鴻巣市ホームページ http://www.city.kounosu.saitama.jp/
鴻巣市観光協会ホームページ http://www.konosu-kanko.jp/